

団体名
NPO法人LivEQuality HUB

LivEQuality
リブクオリティ
HUB

見守り活動のタイトル：

住まいを通じて、継続的に支援機関と繋がり孤立を防ぐ

キャッチコピー

母子家庭に「住まいと繋がり」を届ける

代表 岡本 拓也
住所 愛知県名古屋市中区東桜2丁目4-9ナゴヤビル203
連絡先 info@livequality.co.jp
団体活動開始：2022年1月～



団体ホームページ

見守り活動の概要

✓住まい探し支援 ✓居住後の見守り・つながりづくり支援

●LINEやメールを通じて、住まい探しに困難を抱えた母子からの相談を受け、条件に合う住まいを見つけることのできる大家さんや不動産会社、居住支援機関に繋がります。

●LivEQualityが所有・管理する物件に居住した母子へは見守り支援を行います。行政手続きサポートや食糧支援、学習支援、精神サポートなど、定期面談や日常のかかわりを通じて必要な支援を見つけ、支援機関に適切な形で繋ぐことで「独りで悩む」ことを防ぎます。

見守りエピソード/ストーリー

居住者の多くはDV被害などを受け、入居当初は母子ともに顔をこわばらせ、心を開いてくれないことが多いです。また、過去の失敗体験から繋がることや支援を受けることに対して消極的な方も少なくありません。しかし、継続的に関わっていくことで、徐々にその緊張が解けていきます。「最近こんなことで困っていて」「これからこういうことをやってみたいのですが」など、未来の意欲を表す言葉が親子それぞれから出てきたとき、それをサポートできる機関を紹介します。そういった小さな“繋ぐ”を通して繋がることへの自信を取り戻し、近所の人や就業先の人や学校の先生たちと、笑顔で会話をし、社会に融けこんでいくという流れが様々な家庭で起こっています。



活動写真



見守り活動のポイント

- ・長期的に関係性を築き、「支援者」ではなく「近所の友達」になる。
- ・地域資源を誰よりも知る。官民間わず、分け隔てなく関係性をつくり、居住者に繋ぐ。
- ・「自分でできた」という成功体験を重ねてもらうことを大事にする

見守り活動をはじめた背景

【住まいだけでは足りない、から始まった見守り事業】

●千年建設の代表であった岡本は、コロナ禍で住まいに困るシングルマザーの状況を知り、「世の中に対してできることをしたい」と思い、千年建設の新規事業として、物件を取得し、シングルマザーへ提供する事業を2021年1月より開始しました。

●行政からも支援を受けられず、出会った当初は警戒の鎧をまとっているようなお母さん、そして子どもが、提供した住まいに住み始めると、笑顔になり、自分の人生に対して前向きになりはじめる。その笑顔と変化を目の前で見ると、この取り組みをもっと拡げていくべきだと感じました。

●一方で、住まいの限界も感じました。時間にもお金にも気持ちにも余裕がないお母さん。限られた時間で必要な手続きを調べ、見知らぬ様々な機関や団体に自分の身の上の話をしなければいけないストレス。それを頑張っても必ずしも上手くいかない現実をみて、ただ住まいを提供しただけではこの問題は解決しないのだと実感させられました。

●困難な状況にいる彼女たちが、住まいと「繋がり」を取り戻して挑戦への一歩を踏み出した時、その姿を通じて彼女たちこそが社会を変えてゆける存在になれる、そう信じています。しかし、大家である自分には、そこまではできない。それを事業として責任を持って担える仲間を集まってもらう必要がある。

そう思い、居住後の見守り支援まで腹を括って取り組むために、NPO法人LivEQuality HUBを立ち上げました。

対象／頻度／内容

(1) ソーシャル住まい探し事業

●対象世帯：100世帯/年（2023年1月現在）

DV等、様々な理由で住まいを失い、金銭的にも余裕がない中住まい探しを行っている母子。離婚成立前の母子も含む。

●場所/頻度

LINE/メール/電話/事務所にて相談対応

●内容

現在の状況や困りごと、住まいに関する希望などを聞き、適切な支援機関や住まいを紹介する。

(2) 見守り事業

●対象者：LivEQualityが所有・管理する物件に住む母子世帯。

●頻度/内容

・定期面談（月1回程度）：困りごとや最近の生活の様子を聞き、必要な支援機関やサービスを紹介する

・支援機関への接続（随時）：支援機関への紹介や同行支援、面談同席などを行い、それぞれにとって負担のない形で支援機関に繋ぐ

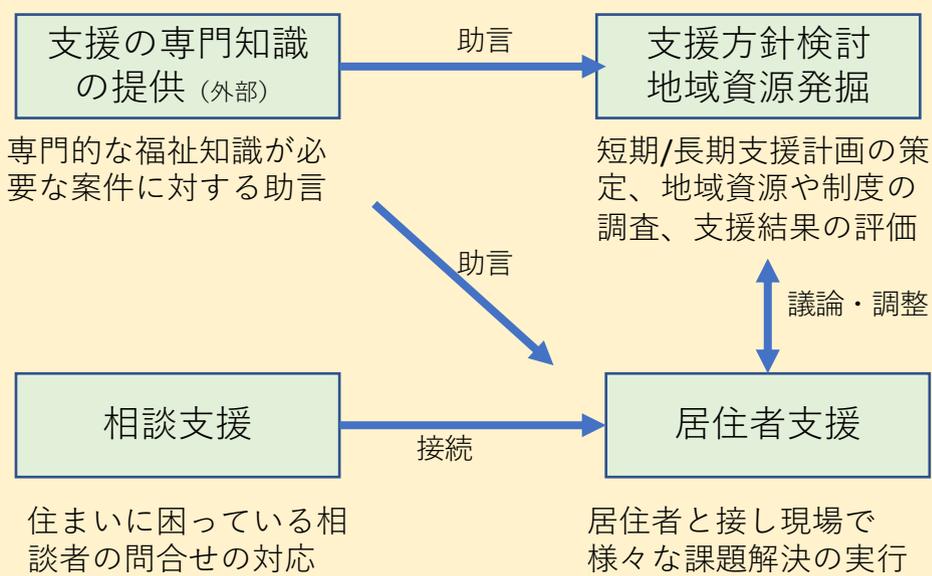
・複数支援機関間の支援方針の擦り合わせや仲裁支援

・支援制度の発掘とその情報提供・手続き支援

見守り活動において抱えている課題

- ・団体の基盤の強化と安定財源作り：職員を雇用し、事業を継続的にやっていくための資金基盤を整える
- ・繋がり見える化：多様な支援機関や制度をどの職員でも検討し、接続できるようにするためのデータベースの構築
- ・外部人材の巻き込み：個人情報配慮しながら地域の様々な主体と一緒にサポートする体制を構築するための仕組みづくり

見守り活動を行う組織体制図



※いずれの役割も職員が兼務している

他団体との連携

【組織横断、部署横断の居住支援】

LivEquality HUBでは、自団体のみで居住者の支援を行うのではなく、地域にある資源に繋ぐという部分に力点を置いています。「DV×生活困窮」、「外国籍×離婚前」など複合的な課題を持つ母子の支援は、複数の機関や自治体内の複数の部門による支援を必要とするケースがほとんどですが、それぞれの間の連携が取れていないのが現状です。そこで、私たちが本人のニーズを理解し、必要なサービスに繋げ、さらに複数機関の間の連携を促進するためのスキーム作りやコミュニケーションを行っています。

【連携団体例】

女性相談員、生活保護課、児童相談所、保健センター、警察、社会福祉協議会、女性クリニック、メンタルケア、外国人向け生活支援、外国人向け通訳、食料品支援、子ども食堂、お弁当宅配、ボランティアの場、就労支援、派遣会社、ホームレス支援、民生委員、弁護士、一時保護施設、シェルター、母子生活支援施設、不動産会社、管理会社、保証会社、衣服寄贈、中古家具提供、中古家電提供、学習塾、フリースクール、病児保育、保育園、小学校、隣の部屋のお母さん、、、

【連携事例】

- ・元夫からのストーキングされる恐れのある居住者を保護するため、警察・転居前の自治体・転居後の自治体と連絡を取り、緊急時の対応方法をすり合わせ、それを居住者へも伝える。
- ・調停時に不安を抱えたお母さんにクリニックを紹介するとともに、弁護士のセカンドオピニオンを紹介する。
- ・生活保護受給前に入居関連費用を支払わなければいけない入居者のために、大家と支払条件について相談し、入居を進められる条件に変更する。
- ・家具の調達ができなかった家庭に、中古家具提供してくれる企業を紹介
- ・日本語に不安がある外国籍母子のために地域のNPOによる日本語教室をアレンジ
- ・児童相談所の面談に同席しそれぞれの主張を整理し、子どもを引き取るができる環境にするための寄り添い